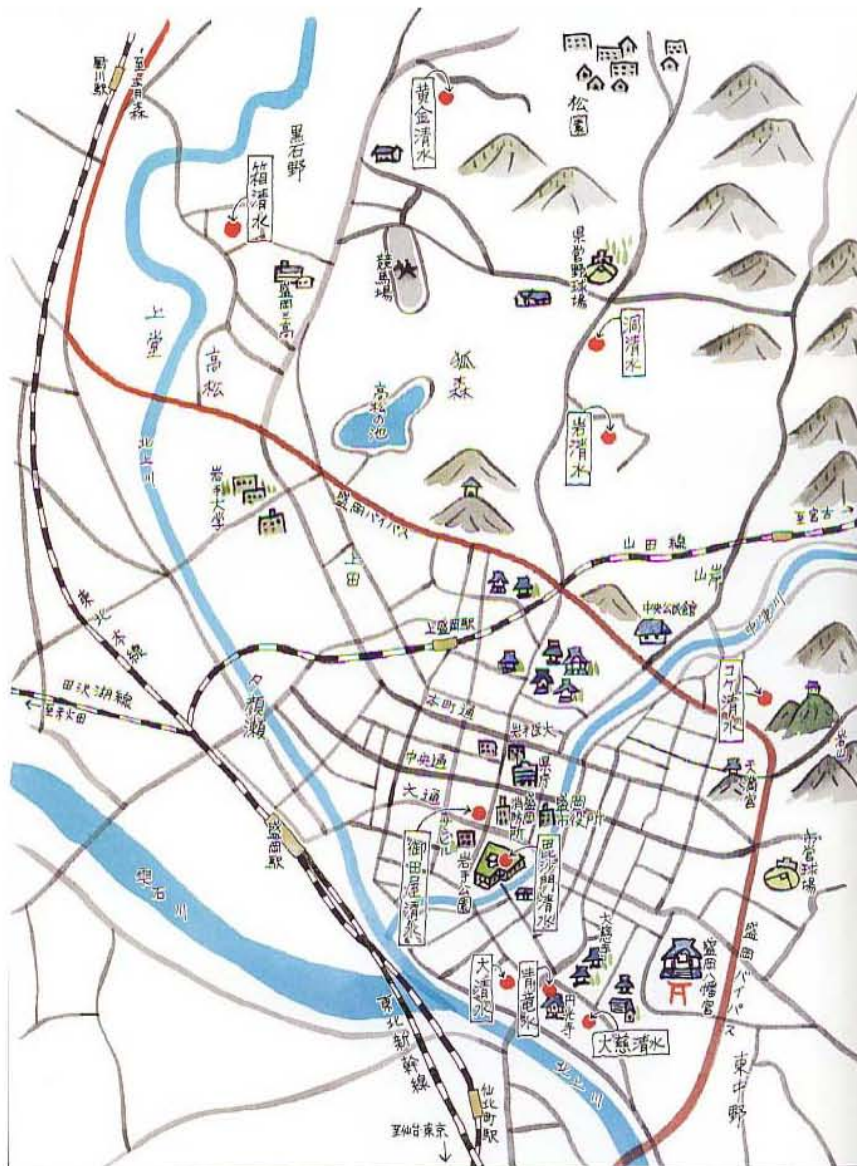


もりおか水の歴史展

水道の役割

飲料水としてだけではなく、調理・洗濯・入浴・清掃・トイレ等々に利用されます。ある資料によると、家庭での割合は炊事25%、洗濯25%、トイレ21%、風呂21%、その他8%ぐらいです。



盛岡十大清水分布図

城下町と上田堤

盛岡城下は北上川、中津川、雫石川の3河川の合流点であるため、わき泉が多くありました。特に現在の
上田一帯は湿地が広がり、盛岡城の築城や城下造りを
始めるのに上田方面からの浸水は大きな問題でした。
そこで、高松沼に堤を造り、「上田堤」と呼ばれる、
上堤、中堤、下堤の3堤ができました。なかでも、最
も大きな中堤をせき止めてできたのが、現在「高松
の池」です。以後、大雨のたびにあった上田から町
の中心地への浸水はなくなりました。



高松の池

高松の池—上田堤

盛岡が城下町として整備される前，城下にあたる場所は北上川，中津川，雫石川の合流部に近く，洪水による出水が多く，また周囲からのわき水によって湿地となっていました。そのため，奥州道中は仙北町から北上川を渡り，神子田，上小路，松尾大明神前，八幡横丁，妙泉寺山下まで行き，加賀野春木場で中津川を渡り，報恩寺前，法泉寺下，上田沼（高松の池を含む一帯）の付近を通って，黒石野に抜けるという山際の道でした。

慶長3年（1598）から始まった盛岡城築城に際して，街道を城下に通すために湿地の埋立を行いました。まず始めに上田組町北詰（北の玄関で高松郵便局付近）から城下に向かう直線道路（現在の**上田通り**）を造りました。さらに上田沼に3つの堤（上堤・中堤・下堤：上田堤）を造り，治水対策としました。上田堤の造成年代は寛文年間（1661～1673）ごろとしか分かっていませんが，築堤によって三戸町・仁王方面の開発が可能となり，城下町が広がりました。当初，上田堤は灌漑かんがい用水の役割は小さく，30石（約5412ℓ）の米を生産する水田が利用していたにすぎませんが，嘉永5年（1852）に底樋そこひを施し，約30町歩（約30ha）の水田を灌漑したそうです。

明治時代，上堤と下堤の池は水田に変わり，中堤（堤高10m，堤長248m）の池（貯水量362,000m³）は現在の高松の池（大正年間に命名）になりました。明治25年（1892），治水だけではなく，市民の憩いの場所としてマツやツツジ，ウメなどが植えられ，屋形船の遊覧も試みられました。明治39年（1906）には日露戦争の勝利を記念して地元有志が中心となって約1,000本のサクラの記念植樹が行われました。これ以降，公園としての整備が進み，昭和32年（1957）に都市計画法による都市公園に決定しました（公園面積44.3ヘクタール）。現在，「日本さくらの名所百選」に選定されています。



報恩寺の井戸

盛岡の清水

盛岡中心街の基盤は、花崗かこう岩の上に砂礫や粘土が厚く堆積した地質からできている。そのため、飲料水に適した水を得ることは非常に困難な場所でした。しかし、北上川や中津川によってできた河岸段丘の崖下から湧水がいくつもありました。これらは清水、地元では「すず」と呼び、いくつかの清水は現在でも利用されています。

平成20年（2008）6月、「平成の名水百選」が環境省によって選定され、盛岡市から「大慈清水・青龍水」と「中津川綱取ダム下流」が選ばれました。そのほか、代表的な清水には次のようなものがあります。

1. 大慈清水（だいじしみず）：鉾屋町4：大慈寺からわき出る水を地下に木樋きどいを通して通水されている共同井戸、現在はポンプで水を上げています。昭和2年（1927）に利用者によって用水組合が整備され、定期的に清水の清掃・管理を行っています。盛岡三清水の一つです。

2. 青龍水（せいりゅうすい）：大慈寺町4：近くの祇陀寺ぎだじから引いたわき水を通水している共同井戸で、古くから庶民の生活用水として利用されてきました。大慈清水と同じように昭和7年（1932）に用水組合が整備されました。青龍とは祇陀寺の山号である青龍山が由来となっています。盛岡三清水の一つです。

3. 御田屋清水（おたやしみず）：大通り1丁目3：城下第一の清泉として、公供・大奥御用、御茶道の水として使われていました。番人を置き、常時に施錠されていました。名前は三戸城の本丸下にあった清水から付けられました。盛岡三清水の一つです。

4. 毘沙門清水：内丸1岩手公園内：盛岡城内には9つの清水があったうちの一つで、日常的に使用されていました。大正時代末期までわずかに出ていましたが、現在は涸れてしまいました。

5. 洞清水：三ツ割5丁目6：県営野球場に近い国道455号線付近の民家にあります。近くに洞清水団地があります

6. 岩清水：石清水16：盛岡白百合学園に近くあります。町名にもあります。

7. 箱清水：箱清水1丁目4：盛岡第三高等学校から三馬橋に向かい道路脇にあります。道路拡幅のために一時、湧水口が塞がれましたが、昭和51年（1976）に復元されました。町名にもあります。

8. 黄金清水：上田字東黒石野：上田の大森山の西山麓にあるわき水で、古くは小金清水とも呼ばれていました。明治天皇が東北御巡幸の際、馬車から馬に乗り換えられた場所で、石碑が建てられています。初代の盛岡競馬場は黄金競馬場と呼ばれていましたが、その名前の由来の場所です。

9. コケ清水：加賀野字桜山：新庄浄水場の裏に当たる妙泉寺の山中にわく清水で、現在は使用されていません。

10. 大清水：清水町12：明治五年（1872）に創業した大清水多賀の庭園（市指定の保護庭園）内にあるわき水で、店の名前は清水の名前から付けられました。



御田屋清水



青龍水



大慈清水

井戸から水道へ

盛岡は明治4年（1871）の廃藩置県によって県庁所在地となりました。全国でも伝染病の対策として近代水道の整備がされるようになりました。日本で いちばん早く近代水道ができたのは横浜です。

昭和3年（1928）にはまず民間の「盛岡水道利用組合」が設立され、中津川を境にした河北地区約2,000戸に簡易水道の給水を始めました。当時、東北地方の県庁所在地で水道がないのは、盛岡市だけだったのです。盛岡市の水道は昭和9年（1934）に給水を開始しました。



原敬生家の井戸



下田家の井戸
やぐらからの落差を利用



願教寺の井戸
汲み上げ式ポンプ



天神通送水管埋設工事
昭和8年（1933）6月撮影
盛岡みず物語より

日本の水道

わが国の水道は戦国時代、小田原の戦国大名北条氏康（1515-1571）によって小田原早川上水が建設されたことから始まります。江戸時代になると、江戸の町に水を供給するために神田上水（1651頃）や玉川上水（1654通水開始）などが建設され、上水道のネットワークが完成しました。これらの上水ができることによって、江戸の人口は100万人を超す都市として発展しました明治時代になると、各地で伝染病（明治19年（1886）に東京でコレラ発生、1万人近くが死亡）が発生しました。その対策を基本とする公衆衛生のために、都市部を中心に上水道の整備が始まりました。最初に近代水道が整備されたのは横浜でした。当時、住民は水を求めて井戸を掘りましたが、横浜は海を埋め立てて拡張したために、良質な水が得られず、ほとんどの井戸水には塩分が含まれていました。そこで、英国人技師を顧問に、相模川の上流に水源を求め、明治18年（1885）に近代水道の建設に着手し、明治20年（1887）9月に完成しました。これ以降、各地で近代水道の導入が始まりました。なお、近代水道とは「川などから取り入れた水をろ過（ろ過浄水）し、鉄管などを用いて有圧で給水（有圧送水）し、いつでも使うこと（常時給水）のできる水道」です。

主な都市の水道完成年は次の通りです。

- 横浜：明治20年（1887）
- 函館：明治22年（1889）
- 長崎：明治24年（1891）
- 大阪：明治28年（1895）
- 東京：明治31年（1898）

昭和50年（1975）ごろにはほぼ全国に上水道網が完成しました。これらの過程で、各地にダムが建設され、河川整備も進行了しました。近代水道の完成はそのまま、わが国の近代化に符合します。

盛岡市の水道

昭和3年（1928）10月に陸軍の特別大演習が、盛岡市を中心に行われました。その時、軍馬に与える多量の水が必要となりましたが、当時、盛岡市には水道がなかったため、簡易水道を引くことになりました。これを機会に「盛岡水道利用組合」が設立され、中津川北側の河北地区の約2000戸に簡易水道による給水が始まりました。当時、東北地方の県庁所在地で水道がなかったのは盛岡市のみで、水道の設置が急がれました。昭和4年（1929）、盛岡市は水道事業に着手するを決定し、水源や配水管の調査などを経て、昭和8年（1933）から本格的な工事が開始しました。そして昭和9年、米内浄水場と新庄配水場が完成し、試験給水を行った後、12月1日に盛岡市内の一般家庭・職場に給水が始まりました。

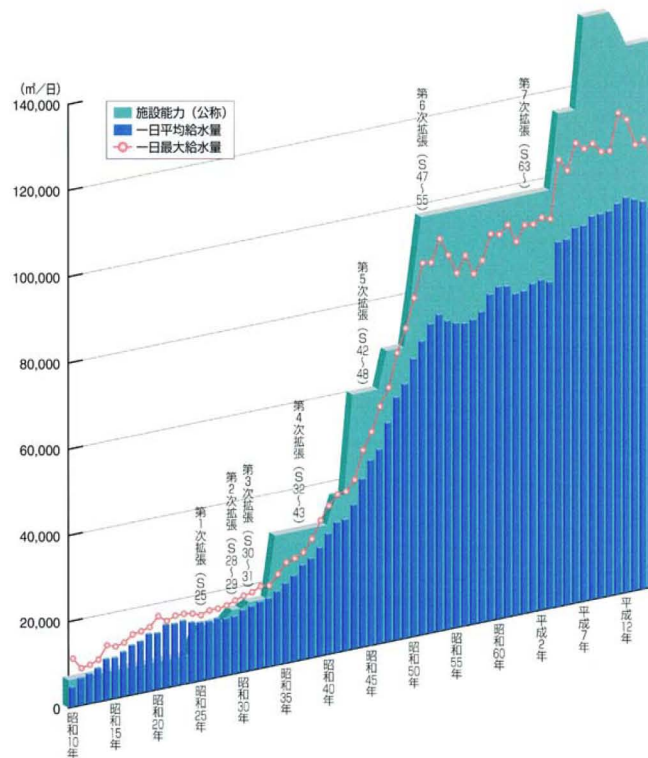
現在、盛岡・都南地域の水道水源は米内川、中津川、雫石川、築川の4河川で、玉山区では岩手山からの湧水や地下水を使用しています。盛岡市内の配水管の総延長は1420kmあります。代表的な浄水場は次のものです。

1. 米内浄水場：上米内字中居49：米内川、32,450m²：盛岡市内で最初にできた浄水場で、市内中心街よりも高い位置にあるため、下流地域に無理なく給水しています。この浄水場の特徴は「緩速ろ過」という自然力に任せたる過方法を用いていることで、創立当時と同じです。平成11年（1999）に当時の管理事務所（現、水道記念館）出水井、緩速ろ過池とその調整室などが国の有形文化財に登録されました。また、約30本あるヤエベニシダレザクラは県指定保存樹木となっています。
2. 中屋敷浄水場：中屋敷町9-35：雫石川、30,850m²：昭和34年（1959）に完成した浄水場で、盛岡市内では2番目です。創立当時、地下水のみを水源としていましたが、不足となり、雫石川の伏流水を使用することになりましたが、昭和45年（1970）からは現在と同じように表流水だけを使用することになりました。
3. 沢田浄水場：東中野字沢田7：築川、30,400m²：昭和50年（1975）に完成した浄水場で、取水・導水施設は明治37年（1904）に建設された宇津野発電所（岩手県最初の発電所）の施設を、東北電力から譲り受けて使用しています。取水から配水まで、標高差を利用しています。市内東部から南部の最も広い範囲に給水しています。
4. 新庄浄水場：加賀野字桜山86：中津川、33,000m²：平成7年（1995）に完成した浄水場で、これまでは米内浄水場が創設したときに設置された配水池の場所にあたります。古くから「岩山貯水池」と呼ばれて、親しまれていました。現在の施設は自動制御され、活性炭処理施設も設置されています。また、太陽光発電施設も設置され、年間4万kwhの発電をしています。



米内浄水場

盛岡市給水量の増加



盛岡市の1日平均給水量と1日最大給水量



米内浄水場系

新庄浄水場系

盛岡市の水道施設と給水圧域

盛岡市水道事業の歩み

昭和3年（1928）4月	盛岡水道利用組合が創立され、簡易水道が布設される。仁王・駅前方面に給水が始まる。
昭和7年（1932）8月	水道布設計画が認可される。計画給水人口50,000人とする。
昭和9年（1934）12月	米内浄水場が完成し、各戸に給水が始まる。
昭和17年（1942）8月	経済統制が強化され、断水、時間給水などが始まる。
昭和19年（1944）7月	大洪水により、市内全域が1ヵ月の断水となる。
昭和20年（1945）9月	進駐軍（盛岡工業専門学校（現、岩手大学工学部）に駐留）の要請で、24時間の給水が始まる。
昭和25年（1950）4月	第1次拡張事業（中津川揚水場建設）が議決される。計画給水人口を63,000人とする。
昭和28年（1950）4月	第2次拡張事業（青山揚水場建設）が認可される。計画給水人口を70,000人とする。
昭和30年（1955）10月	第3次拡張事業（北厨川揚水場新設）が認可される。計画給水人口を75,000人とする。
昭和32年（1951）6月	第4次拡張事業（中屋敷浄水場、高松配水場建設）が認可される。計画給水人口を100,000人とする。
昭和38年（1963）12月	第4次拡張事業第二期（中屋敷浄水場施設拡充）に着工する。計画給水人口を120,000人とする。
昭和41年（1966）12月	第5次拡張事業（米内浄水場施設・新庄配水場拡充）が認可される。計画給水人口を161,500人とする。
昭和45年（1970）3月	第5次拡張事業の変更（中屋敷浄水場施設拡充）が認可される。計画給水人口を174,000人とする。
昭和47年（1972）3月	第6次拡張事業（沢田浄水場建設）が認可される。計画給水人口を230,100人とする。
昭和56年（1981）10月	御所ダムが完成する。
昭和57年（1982）10月	綱取ダムが完成する。
昭和59年（1984）6月	第6次拡張事業の変更（給水区域変更、中屋敷浄水場活性炭処理施設導入）が認可される。 計画給水人口を230,500人とする。
昭和63年（1988）1月	第7次拡張事業（新庄浄水場・水質検査センター建設）が認可される。計画給水人口を251,500人とする。
平成5年（1993）12月	第7次拡張事業の変更（都南村合併に伴う緊急整備）が認可される。計画給水人口を385,540人とする。
平成7年（1995）2月	盛岡市水道事業基本計画を策定する。
平成9年（1997）3月	盛岡市水道水源水質保全基本計画を策定する。
平成14年（2002）10月	盛岡市水道水源保護条例を施行する。
平成17年（2005）3月	新盛岡市水道事業基本計画を策定する。

参考書
もりおか物語（五）―上田かいわい―，盛岡の歴史を語る会，熊谷印刷，1976
盛岡みず物語―水道の歴史，盛岡市水道50周年記念誌編集委員会，盛岡市水道部，1986
盛岡市水道事業70周年のあゆみ―盛岡市水道70周年記念誌―，盛岡市水道70周年記念事業プロジェクトチーム，盛岡市水道部，2005
もりおかの水風景―盛岡市水道事業のご案内，盛岡市水道部，2008
盛岡水の恵みガイドブック盛岡水物語，文化地層研究会，2008
横浜水道の歴史，横浜市水道局ホームページ



雫石川 鹿妻穴堰穴口堰（取水口）